

建設業の
労働災害が
増加して
います！！

建設現場での労働災害

特に（墜落・転落、転倒、飛来・落下、はさまれ・巻き込まれ、切れ・こすれ）災害を防止しよう！

岩手県の建設業における労働災害発生状況（平成25年）

死亡者数は平成24年と比較し2人減、死傷者数は47人（18.4%）増加しました。

死亡者数 4人、平成24年6人

死傷者数（休業4日以上死傷者数） 302人、対前年同期比47人（18.4%）の増加

花巻労働基準監督署管内の建設業における労働災害発生状況（平成25年）

死亡者数は24年と比較し1人減、死傷者数は12人（24.5%）増加しました。

死亡者数 0人、平成24年1人

死傷者数（休業4日以上死傷者数） 61人、対前年同期比12人（24.5%）の増加

事故の型別 死傷者数（休業4日以上災害）



平成25年に、岩手県の建設業で発生した休業4日以上死傷者数302人を事故の型別で見ますと、墜落・転落（37.8%）、切れ・こすれ（11.3%）、飛来・落下（10.9%）、はさまれ・巻き込まれ（9.3%）、転倒（8.6%）となっています。

この5つの型別の災害で、**全労働災害の約78%**を占めています。

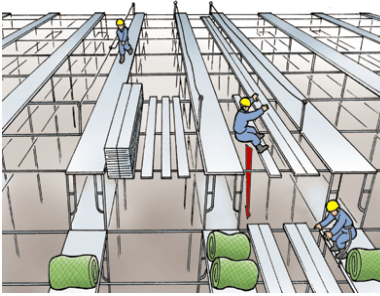
これから東日本大震災から3年が経ち、今後街づくりの本格化に伴い、被災地においては集中的かつ輻輳する中での土木・建築工事が予想されます。平時とは異なる慌ただしい作業が予想されるほか、建設現場では工事の追い込み等による作業の輻輳から、労働災害が起きやすい状況が生まれます。また、被災地以外の地域においても、人出不足、未熟練労働者や高齢化問題を要因とする労働災害が予想されます。

建設現場での労働災害を減少させるためには、特に「墜落・転落、転倒、はさまれ・巻き込まれ、切れ・こすれ、飛来・落下」災害を防止する対策が重要です。



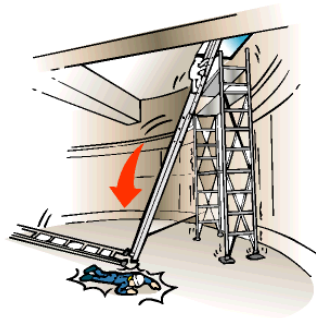
その作業、安全対策は十分ですか？

墜落・転落災害の防止



墜落の危険がある高所作業では、足場、作業床を設置し、手すり等の墜落防止措置を講じましょう。これが困難な場合、安全ネットの設置、安全帯の使用を徹底しましょう。

脚立・はしご災害の防止



脚立や伸び馬を使用する場合は、脚部の滑動や沈下に注意し、開き止めを確実に使用しましょう。移動はしごは、建物に固定する等転移防止措置を講じましょう。

移動式クレーン転倒災害の防止



積載型トラッククレーンは、旋回方向により車両の安定が変わります。アウトリガの張出幅によっても定格総荷重が変わります。取扱説明書で確認しましょう。

はさまれ・巻き込まれ災害の防止



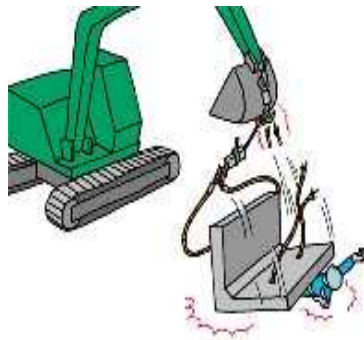
車両の走行範囲への立入禁止措置を講じるか、誘導員を配置しましょう。特に後進時の安全確認を徹底しましょう。

切れ・こすれ災害の防止



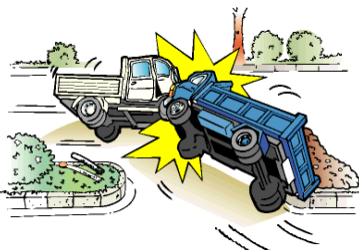
作業開始前に、携帯用丸のこ盤の歯の接触予防装置の機能を確保しましょう。携帯用研削盤(ディスクグラインダ)については、正規な砥石を装着しましょう。のこ刃の使用は禁止です。

飛来・落下災害の防止



車両系建設機械の用途外使用は原則として禁止です。クレーン作業がある場合は兼用機械を導入しましょう。荷の吊り上げ作業では、吊り荷の下に人を立ち入らせないようにしましょう。

交通労働災害防止



交通ルールの遵守、過積載の防止により安全運行に努めましょう。荷の積み卸し作業で荷台からの墜落災害も多発しています。保護帽を着用しましょう。

厚生労働省では、「あんぜんプロジェクト」ホームページを開設しています。

労働災害発生状況や、プロジェクトに参加する企業(プロジェクトメンバー)を公表するとともに、プロジェクトメンバーの安全衛生活動の取組みの紹介など、職場の労働災害防止対策に役立つ各種情報を公表しています。

皆さん、ご活用ください。

<http://anzeninfo.mhlw.go.jp/anzenproject>